

小学生から身につけたい 「ネット護身力」

インタビュアー

IT教育アドバイザー

尾花 紀子さん

パソコンやインターネットが日常生活のなかで身近なものになりつつある現代。子どもたちがインターネットや携帯電話にふれる機会は確実に増えてきました。

便利な一方で、たくさんの危険も潜んでいるのがネットの世界。インターネットや携帯電話を使うことで子どもたちを危険な目に遭わせたくない、傷ついてほしくない——保護者ならばだれもが思うことです。けれども好奇心旺盛な子どもたちに「使うな」「見るな」といっても、この時代を生き抜いていくかぎり、それは非常に難しいことでしょう。

ではどうすれば安全に、インターネットや携帯電話を有効活用することができるのか。保護者はどのようなかわり方をすればよいのか。IT教育アドバイザーであり、男女二児の母親としてもさまざまな体験をしてこられた尾花紀子さんに、お話をうかがいました。

つけたたい

小学生にも蔓延する 迷惑メールの危険

——インターネットや携帯電話を悪用した詐欺や傷害、性犯罪など、心が痛むようなニュースを頻りに耳にしますが、小学生が巻き込まれやすいトラブルにはどういったものがあるのでしょうか。

インターネットの学校導入開始から十二年、授業での活用範囲も広がり、多くの家庭にパソコンとブロードバンド環境が普及しています。子どもたちにとってインターネットはとても身近な存在になり、宿題やゲームの攻略法を調べたり、アニメやキャラクターサイトを楽しんだりする子は珍しくなくなりました。メールや掲示板を利用してコミュニケーションをとったり、自分でブログサイトを運営する子も増えつつあります。

そんななか、小学生もトラブルに巻き込ま



尾花 紀子
(おばな・のりこ)

1961年東京生まれ。IBMのマーケティングプランナー、WEBプロデューサー、コンサルタントを経て、フリーのコンサルタントとして独立。日本IBM初の子どもの教育ソフト『カルロシリーズ』の内容指導および監修、親子向けワークショップの運営ほか、子どものためのコミュニケーション&育成プログラムを数多く手がけてきた。IT専門家&母親の両目線で語る、身近な具体例の多い講演や取材記事は高い評価を得ている。情報社会学会会員、日経デジタルコアネット会議メンバーほか。プライベートでは中高生二児の母。共著に『子どもといっしょに安心インターネット』（岩波書店）がある。（オフィシャルサイト） <http://www.frey.jp/>

れやすいのが「迷惑メール」。不幸の手紙のメール版ともいえる「チェインメール」もその一つです。楽しいもの、怖いもの、占いやIPなど内容はさまざまですが、友だちに回すだけでは収まらず、ちよっとしたいたずら心から自ら作って送る小学生もいるようです。「チェインメール」は仮の姿で、ほかの迷惑メール同様、アダルトサイト・出会い系サイト・詐欺サイトなどに誘導するURLが書かれたものもあります。また、その情報や連絡先が記され



こんなことにも気をつけたい

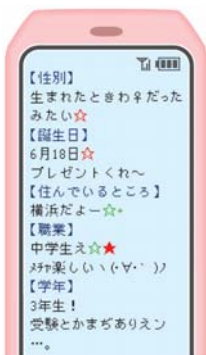
広告にも目が行きがち

子どもはサイトのコンテンツと広告の見分けがつきません。また、「無料でプレゼント」などのオウイン話も大好き。むやみにクリックしてしまわぬよう、保護者と一緒にネットを利用し、クリックしていいものといけないものの区別を教えましょう。



【プロフとは?】

「プロフ」とはプロフィールの略で、携帯サイト上の記入式ホームページのこと。氏名、年齢、住所や好きなタレントなど、数におよぶ項目のうちで公表したいものを記入するだけで、だれでも簡単に自己紹介のページを無料で作ることができる。プロフ上に掲示板機能を設けることも可能。女子中高生を中心に人気で、携帯電話の赤外線通信でプロフのURLを名刺代わりに交換するが、パソコンからも利用できる。



ていて、危険なわなが待っていたり関係ない人や会社に多大な迷惑をかけることになり、というケースも少なくありません。それを広めるのは、結果として犯罪に加担しているのと同じこと。一昔前の「チェーンメールはネット渋滞を引き起こす」だけではすまない時代になっています。ですから、害の有無にかかわらず「チェーンメールそのものがよくないので、回さないのが正しい行動」だと教え、子どもたちが自然と「善悪の感覚」を身につけられるように導いてあげたいものです。

とくに携帯メールでは、アドレスが名簿業者に流れて大量の迷惑メールが送りつけられるケースが頻発しています。子どもたちにはどんな危険が待ち受けているかを話したうえで、「知らないアドレスから届いたメールは開けない」「怪しいメールは何もせずに削除する」「不安なときは、すぐに親に見せて相談する」といったことを優しく言い聞かせましょう。

個人情報公開してしまっ 子どもたち

—— 掲示板に書き込みをしたり、ネットで知り合った人とメール交換をしたりする小学生も少なくないと思います。このようなケースで気をつけなければいけない点はどうなんでしょうか。

今の中・高校生の「プロフ」のサイトをご覧になったことはありませんか？ 自分の顔写真とともに、「東京都〇〇区〇〇町〇丁目」〇〇高校〇年です」なんて書いてあるんです。こんな情報を公開したら、変質者につきまわったり、暴行されて殺されたりするかもしれないと、どうして考えられないのでしょうか。

これは他人ごとではありません。実際、小学三、四年生ぐらいの女の子は自己主張の一つの手段としてプロフなどに興味をもち始める年代ですし、携帯サイトのプロフ登録なんですごく簡単ですから、低学年の子もだつて、指示どおりに操作していけばあつというまにできあがってしまう。ネット上に一度公開してしまった情報は、たとえ急いで削除したとしても、どこのがコピーして保存しているかわかりません。公開しなかった状態にはどうやっても戻せないのです。そうした事態を未然に防ぐためにも、低学年のうちから注意を促しておくことが必要なのです。

同様に、掲示板に書き込みをしたり、ネットで知り合った人にメールを書く場合でも、自分の個人情報を決して明かさないように言っ



こんなことにも**気**をつけたい

長時間の凝視はNG

子どもはネットに夢中になると時を忘れてしまいます。同じ視点距離で物を長時間見つづけることは、子どもの目の調整機能の発達を阻害する原因になります。一定時間画面に向かったら休憩を入れるよう、保護者が声をかけましょう。もちろんゲーム機も同様です。

子どもには、「ネットで知り合った人に絶対に個人情報を見せたくない」「むやみに会ってはいけない」と約束させると同時に、親子間の「現実のコミュニケーション」をたくさんとって、どんな相手とメールのやりとりをしているのか、どんな掲示板に書き込みをしているのかを、身近なだれかが知っていると状況を知ることがとても大切です。ネットの危険を知り、自分の力で適切な判断ができるようになる

るまでは、保護者の監視のもとで利用させるべきですし、携帯電話を持たせる必要があるならば、機能の取捨選択も検討しましょう。

ネットに没入する女の子 現実に試そうとする男の子

男の子と女の子とは、ネットとのかかわり方が、一般的に女の子のほうがネットの世界に感情移入する傾向があります。メールやチャット、掲示板などで誤解やトラブルが生じるのは圧倒的に女の子が多いです。

誤解やトラブルが起こる理由はいろいろです。まず今の子どもたちは文章を書く機会が少なからず、言葉が足りなかったり、表現が適切ではなかったりします。相手の表情が見えない、文字だけのやりとりですから、字面だけで勝手に判断してしまい、ささいなことでも誤解が生じてケンカになってしまったりです。

しかも困ったことに、最近の子どもたちというのは、相手に面と向かって注意をしたり、欠点を指摘したりすることを、「悪いこと」と思っているらしいんですね。「直接言ったら、相手を傷つけることになるから言えない」と。それでどうするかというと、「あの子って、○ ○だよ」と第三者に言う。それがいじめに発展することだってあるのです。

しかし、小学生に「読む人の気持ちになっ



こんなことにも**気**をつけたい

利用料金なんて気にしてない

ブロードバンド環境が整備され、時間を気にせずネットを楽しむようになった現代。テレビやゲーム機と同じ感覚でネットを利用しているため、なかには、コンテンツ利用も無料だと勘違いしている子も。子どもには料金面の説明もして、友だちの携帯電話を気軽に借りたりしないことなども約束させましょう。

て、相手に誤解されないような文章を作りなさい」なんて言っても、まだまだ無理。だからこそ受ける側が、相手の顔を思い浮かべて、その人のセリフとして文章を読む、ということがすごく大事になってきます。そして、何か疑問に思うことや、カチンと頭にくることがあっても、感情にまかせて返信するのではなく、次の日にも直接相手の顔を見て、真意を確かめてみる。日ごろから、「どういう気持ちで書いた文章なのかを確認することは、相手を非難することでも、悪口を言うことでもなくて、大切なことなんだよ」と教えてあげることが重要です。

一方、男の子の場合は、ネットで見つけたバーチャルな世界の情報を現実世界で試してみたいという傾向があります。これが「爆弾の作り方」や「万引きのしかた」などだったら大変です。子どもの様子を見ていけば、何に興味をもっていかはわかるはずですから、危険な方向に関心をもちそうなら、ふだんの会話のなかで、「こうしたことばやってもいいことだと思わない？」もし一緒にやろうと友だち

親子でインターネットと向きあう

小学生から身につけたい「ネット護身力」

「小学生のうちには、あくまでも親が判断してあげるべき」

に誘われたらどう断る？」など、話しあってみるといいかもしれません。

アダルトサイトに張られたわな

——高学年にもなると、アダルトサイトにアクセスする男の子もいるかもしれませんね。

男の子が性的な関心をもち始めるのはごく健全なことです。ところが、机の周りにちよっぴりエッチなマンガや雑誌が置いてあったぐらいいお母さんがガミガミ言っていると、子どもは隠れてネットでアダルトサイトを見たりするんですね。それが怖い。雑誌やビデオというのは、こちらが一方的に見るだけでは何も起きませんが、ネットでアダルトサイトを見ている場合、パソコンや携帯電話の向こう側から魔の手がニュツと伸びてくることも。サイトの向こうには危険な仕掛けができるんです。画面に大きな画像を表示するには、大量のデータが送られてくるわけですから、その中に仕掛けやわなが混じっていてもわかりません。裸のお姉さんの写真を見ている間に、パソコンの中にウイルスやスパイウェアが入り込んで、パソコンを壊したり、大事な個人情報や盗み出して、外に送信してしまうことだって起こりうるんです。

もちろん正しく運営しているアダルトサイトもあると思いますが、わたしですら、その

見分けはつきません。だからこそ危ないところに足を踏み入れてはいけないんです。「そんなもの、見ちゃいけない」「そんなものを見ている暇があったら、勉強しなさい」ではなく、「そんな画像を見ている間に何が送られてくるかわからないから、早く×をクリックして閉じなくちゃ」——それが子どもたちへの正しい注意のしかただと思います。

いつでも相談できる親子関係を

——トラブルから子どもを守るために、保護者はどのような心がまえで臨むべきでしょうか。何をすべきでないのか、何をしたら危ない

のか、それはなぜか——小学生には、それだけをしっかり教えてあげてください。そこから一歩進んで、自分でどうしたらよいかを判断できるようにするのは中学生以降の段階。子どもが小学生のうちには、あくまでも親が判断してあげなくてはいいけません——と、こういうお話をしますと、「パソコンやネットについてはよく知らないので、子どもには教えられません」とおっしゃる保護者の方がいらっしやいます。けれども必ずしも技術的なことを詳しく知っている必要はないんですね。子どもに必要なのは、大人が長い人生経験のなかで体得してきた「善悪や危険を判断する力」と「コミュニケーションの方法」なのです。

「ネット護身力」アップのために ～保護者編～

子どもを守るために、保護者の方自身も、ある程度インターネットについて知識をもっておき、セキュリティがしっかりしているプロバイダーに加入する、パソコンにウイルス対策ソフトを入れ、常に最新の状態にしてウイルス対策を行うなど、心がけたいところですよ。

しっかり学ぶために

【@Policeセキュリティ講座】

<http://www.cyberpolice.go.jp/pc/elearning/>

インターネットの危険性などについて、入門者向けのわかりやすい説明があります。レベル別にカリキュラムを立ててあるので、基礎的なことから学ぶにはちょうどよいかもしれません。



セキュリティ対策のために

【財団法人インターネット協会】

<http://www.iajapan.org/>

保護者の方に「フィルタリング」を知ってもらうためのページなどがあります。フィルタリング各社のサイト一覧もあるので、比較しやすいでしょう。そのほか、「インターネットにおけるルール & マナー検定」の子ども版などがあります。



そしていちばん大事なことは、子どもがいつでも親に相談できるような関係を築いておくこと。低学年のうちから、「ネットでもちょっとでも心配なことがあったり、何か自分で行動を起こすときには、必ず相談してね」と言い聞かせておく。子どもが何か相談に来たら、なぜやってはいけないのか、なぜ危険なのか、理由もきちんと説明してあげる。そうしたすり込みを積み重ねていけば、ちゃんと自分で善悪や危険かどうかの判断ができる。「ネット護身力」を身につけた子どもに育っていくはずだ。

そしてとくにお母さま方に注意しておかなければいけないことが一つ。わたしもそうなのですが、子どもが危ないと思うと、ついつい語気荒く、どなりつけてしまうことがあります。でもこれは絶対にやめてください。たとえば「まさかプロフなんて作っているんじゃないでしょうね！」なんて強い口調で問いつめたら、子どもは正直に話せなくなってしまう。大事なことは子どもを危険から守ることなので、怒らずに冷静に話をする。子どもが「これって、だいじょうぶかな?」「こんなことになっちゃったんだけど、どうしよう」と感じたら、いつでも相談に来られるような関係を築いておくことを心がけてください。

ところで最近、ファーストフード店などで「空メールを送ると、クーポン券がもらえる」といったサービスがありますが、提供したメールアドレスが何らかのトラブルで外部に流出してしまうという可能性だって考えられます。大

人も子どもも、常に自分の個人情報を提供するリスクとメリットとを天びんにかけて判断する癖をつけていただきたいですね。「たった百円だし、メールアドレスを出しちゃうほうが危ないかな」——お子さんとそんな話をすれば、「アドレスを知らせることには危険も伴うんだ」と気づきつけかけにもなるでしょう。

また、各ご家庭で「パソコンは一日〇分まで」「懸賞には応募しない」など「我が家のルール」を決めることも大切ですが、子どもたちには「約束だから守る」のではなく、「自分の身を守るためには、これがあたりまえのことなんだ」という意識をもつてほしい。小学生こそ、それを自然に体得できる年代なのです。

——ありがとうございます。

「ネット護身力」アップのために ～小学生編～

インターネットは自己責任の世界。子どもであっても、インターネットの危険やルールを理解し、自分の頭で考え、行動できるようになる必要があります。セキュリティ情報を楽しく理解させるには、子ども向けサイトの利用がおすすです。

本人が気づくために

【国民のための情報セキュリティサイト】

http://www.soumu.go.jp/joho_tsusin/security/

電子メールを送ったり、ホームページを見るとき注意なくはいけな情報セキュリティ対策と、具体的な実践内容について小学生向けにページを設けています。



楽しく学ぶために

【キッズ・パトロール(警視庁)】

<http://www.cyberpolice.go.jp/kids/>

「ネットサーフィン編」「ネチケツ編」「携帯電話メール編」など項目ごとにストーリーがあり、「こういったケースはどうすべきか」と選択しながらストーリーを進めることになっています。



【小学生向き 我が家のルール例】

基本の3つ

- 毎日の生活(学校、友だちとのつきあい、勉強や睡眠の時間、その他)をおろそかにしないこと
- 何かあったら、必ず、保護者に相談すること
- 住所や電話番号を書き込んだり、伝えたりしないこと

その他の追加項目

- 1時間使ったら、必ず10分以上休憩すること
- 初めての場所なら、書き込む前に保護者に見てもらおうこと
- 懸賞には応募しない
- フィルタリングサービス(ソフト)を使ったり、何を見ているのかを保護者がチェックすることを了解すること

親子でインターネットと向きあう

親子で楽しくインターネット

低学年の親子におすすめ

『今日は何の日?』— 子どもと一緒に考えよう

※「子どもといっしょに安心インターネット なにができる?」ホームページ-情報活用術(尾花紀子・高橋慈子・内田勝也・杉原五雄著・岩波書店刊)より

テーマ

3月3日 今日は『耳の日』です。

「耳」に関すること、「耳の日」にちなんだこと、何でも調べてみよう!

子どもたちは、3月3日と言えば思いつのが「ひな祭り」「桃の節句」です。もちろん、お節句に関することを調べてみてでもいいのですが、あえて違うテーマを掲げるにより「へえ～、そんな日もあるんだ」「なるほど、ミミの日かあ」と、子どもたちの脳裏に新しい知識をプラスしてあげるのです。

1 「今日は何の日ですか?」と質問し「ひな祭り!」と答えさせてから始めます。「でも、こんな日でもあるんだよ」と教えてあげると、子どもたちは「同じ日でもいろんな『何の日』があるんだな」と知ることができます。

2 インターネットで調べたら、こんなページができました。

- ・耳の日が制定されたのは1954年3月3日
- ・電話の発明者グラハム・ベルの誕生日
- ・ヘレン・ケラーにサリバ女史が指導を始めた日

単に、ゴロ合わせだけではないということがわかります。また、5月5日が手話の日、6月6日が補聴器の日だということなど知ることができ、耳の不自由な人のための耳マークがあることなど、社会に役立つ情報も得られます。



<http://homepage3.nifty.com/mimi-suginami/mimi-mark/mimi-mark.htm>

3 ここから延長して、視野を広げていきます。「糸電話を使って音が聞こえる仕組み」を考えたり、動物や昆虫の耳の位置を調べて「コオロギは足に耳がある!」と発見したりすれば、理科の授業みたいな展開もできます。あとはみなさんの応用力次第です。

お役立ちサイト



【昆虫エクスペローラ】 <http://www.insects.jp/>

自然界にそのままの昆虫の写真が数多く掲載されており、昆虫図鑑は調べものにも利用できそう。虫探しの疑似体験もできる昆虫ゲームや、名前のわからない虫の写真に回答がされたりもしていて、昆虫好きのお子さんが、興味をもって、インターネットに慣れていくのにはよいかもかもしれません。

親子で楽しくインターネット

インターネットの向こう側に人がいるかぎり危険がいつぱい。しかし、それを補っても余りあるメリットが、インターネットにはあります。ルールとマナーを守って正しく使っていれば、インターネットは子どもたちの興味や想像力を育てることのできる便利な道具にもなります。インターネットの危険を話しあったうえで、有効的な使い方も教えてあげてください。ここでは、親子で取り組みやすい活用法をご紹介します。





道具の一つとして、ネットを活用しましょう

いろいろなサイトで調べものをして、さまざまな人の意見を知り、自分の考えをまとめるには、インターネットはとても役に立つツールだと思います。何か調べたいことがあったとき、図書館で何冊も本を借りたとしても限界があるけれど、ネットの場合、かけた時間の分だけ情報が得られます。しかし、ネットでの調べものには脱線がつきもの。保護者の方も一緒に取り組み、適時的確なアドバイスをしてあげてください。

子どもに聞かれてもわからないこともあるかもしれませんが、そんなときは「親子で調べるネタの一つ見つけた!」と、幸運に思いましょ。大人も子どもも、ネットに振り回されるのではなく、自分の道具の一つとしてネットを活用できるようになると、世界がグッと広がりますよ。

(尾花さん・談)

読者プレゼントのお知らせ

尾花さんの著書、『子どもといっしょに安心インターネット』を抽選で6名の方に尾花さんのサインとメッセージを入れてプレゼントします(岩波書店提供)。ご希望の方は、巻末のおたより用紙でお知らせください。

※3巻のうち、どれをお送りするかはおまかせください。



高学年の親子におすすめ

同じニュースの扱い方をいろいろなメディアで比べてみよう

子どもと一緒にテレビを観ているときなどに気になるニュースが入ってきたら、インターネットではどのようにニュースが流れているか、確認してみるといろいろな発見があるはずですよ。親子で一緒に調べたり、子どもと話しあったりしてみましょう。

1 テレビのニュース速報などで気になるニュースを見つけたら、インターネットの新聞社サイトでは、どのように伝えられているかチェックしてみましょう。テレビのニュースとは、違いがありますか。一つの新聞社だけでなく、複数社のサイトで確認してみましょう。

2 新聞は朝夕2回発行されていますが、印刷や配送のためにタイムラグが生じてしまいます。実際の新聞では、どのように報じられているか、確認してみましょう。各メディアで扱い方の違いはありましたか。

3 そのトピックに関する専門家の見解や、個人ブログでの評価なども調べてみましょう。賛成・反対それぞれの主張について確認できますし、違った視点からの考察も発見できるかもしれません。

4 翌日・翌週・翌月と、そのトピックがどのように変化していったのか、長いスパンで追ってみると、さらに深まります。数字が修正されていたり、続報で真相がわかってくるなど、それまで見えていなかったニュースの全体像を把握できるケースもあるでしょう。



ポイント!

ときには誤った情報に出会い、何が本当なの?と困惑することもあるかもしれませんが、インターネットには正確でない情報やまちがった情報も含まれていることを知るきっかけになります。子どもが立ち止まるたびに、助言してあげましょう。

また、トピックに関するお互いの意見や感想を話しあってみてほしいですね。情報を精査し、自分の考えをまとめる練習にもなります。